

令和4年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和4年12月15日(木曜日)

○日時 令和4年12月15日 午前10時34分開会

○場所 議場

○議件

1. 議案第7号 令和4年度網走市一般会計補正
予算中、所管分

○出席委員(6名)

委員長	松浦敏司
副委員長	近藤憲治
委員	石垣直樹
	金兵智則
	工藤英治
	澤谷淳子

○欠席委員(0名)

○議長 井戸達也

○委員外議員(0名)

○傍聴議員(5名)

立崎聡一
永本浩子
平賀貴幸
古田純也
村椿敏章

○説明者

副市長	後藤利博
市民環境部長	武田浩一
市民環境部次長	田邊雄三
生活環境課長	近藤賢
生活環境課参事	田中正幸

○事務局職員

事務局長	林幸一
次長	石井公晶
総務議事係長	法師人絵理
総務議事係	早渕由樹
総務議事係	山口諒

午前10時34分開会

○松浦敏司委員長 ただいまから、文教民生委員会
を開会いたします。

本日の委員会では、付託されました議案1件につ
いて審査いたします。

それでは、議案第7号令和4年度網走市一般会計
補正予算、リサイクル事業、生ごみ堆肥化センター
管理運営事業について説明を求めます。

○近藤賢生活環境課長 追加議案資料の4ページを
御覧願います。

令和4年度一般会計清掃費補正予算、生ごみ堆肥
化センター管理運営事業の歳出予算の補正と繰越明
許費の設定について説明いたします。

1の補正の理由及び内容であります。生ごみ堆
肥化センターに設置しています、破袋選別機1台の
インペラシャフトのモーターが今月、12月5日に故
障し、この修繕を行うため300万円を補正するもの
です。

2の補正額でございますが、インペラシャフトが
228万5,000円、モーター等の交換、修繕する額が71
万5,000円となりますので、300万円の補正となり、
財源は全て一般財源、補正後の額は4,719万9,000円
となります。

3の繰越明許費の設定であります。インペラシ
ャフトにつきましては、発注後1か月で納品される
見込みでございますが、モーターにつきましては6
か月以上かかることから、モーターの修繕、交
換分71万5,000円につきましては、翌年度へ繰り越
すこととして繰越明許費を設定させていただきます。

以上で説明を終わります。

○松浦敏司委員長 それでは質疑に入ります。

質疑ございませんか。

○澤谷淳子委員 この間堆肥化率が非常によくな
ったということをお聞きして、80%近く、そ
れを今やっているということだったのですけれど
も、ちょっとやっぱり6か月ぐらいはまた少し堆肥
化率、ちょっとまた元に戻るといふか、そういう感
じなんでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 現状であります。委託業
者のほうでちょっと時間外に働いて稼働させていた

だいてもらっていて、何とか現状の処理を維持している状況です。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○金兵智則委員 すみません、壊れたのはいつって言っていましたか。もう1回教えていただいてもいいですか。

○近藤賢生活環境課長 12月5日です。

○金兵智則委員 ありがとうございます。

12月5日ということは、それまでは2台体制という状況だったと思うのですけれども、今堆肥化率の話がありましたけれども、たしか9月、10月だったと思うのですよね、77%ぐらいまでいっていたと思うのですけれども、11月ってどれぐらいだったとかというデータとか持っていますか。

○近藤賢生活環境課長 11月につきましては78%です。

○金兵智則委員 わかりました。

それが12月で1台壊れちゃったので、落とさないように時間外でということになるのだと思うのですけれども、結構大変になるのかなと思うのですけれども、その辺はどうなのでしょう。

○近藤賢生活環境課長 早くに直したいところは承知しているところなのですが、委託業者のほうで、また、時間を延長して稼働させることで処理ができるということでご一緒しております。

あと、モーターの納品に時間がかかる場合は、修繕を試みて使えるようであれば、すぐに使える状態も、今、併せて検討しております。

○金兵智則委員 修正を試みてということは、インペラシャフトでしたっけ、1か月ぐらいで来ると言っていましたけれども、それが届くと、修繕をすると、その6か月後のモーターが来なくても、もう1台も稼働させることが可能かもしれないという話なのですか。

○近藤賢生活環境課長 その辺りは鉄鋼の業者と打ち合わせをして、可能であれば、一時的に応急措置ができるのであれば、インペラシャフトの納品後に稼働させて、直らないのであれば、そこは、両方試みることとするのですが、モーターの納品については6か月以上かかるということで、そこは入り次第交換するという事で考えております。

○金兵智則委員 わかりました。

鉄鋼の業者さん……、その機械を見てくれる会社さんということなのですかね。

○近藤賢生活環境課長 こういった機械については

鉄鋼関係の業者さんが見る形になります。

○金兵智則委員 わかりました。

可能性があるのだから先に全額繰越ではなくて、時間のかかるほうだけ繰越にしたということで理解をさせていただきたいというふうに思います。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○石垣直樹委員 過去にこのモーターが壊れたことはあったのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 過去においてもシャフトが壊れた際、併せてモーターも交換しています。前回につきましては、モーターについては在庫があって、すぐに交換ができた状況でした。

○石垣直樹委員 なかなか今は半導体の影響なのかわかりませんが、モーター類が入ってこないという状況があると思いますので、先ほど修繕の話もあったと思いますが、モーターに関しては予備を1台、壊れたものを修理して持っておくとかそういった対応を今後取っていくべきかと思いますが、原課としてはどのようにお考えでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 モーターについては特殊なものでありますので、何とか壊れたものを修繕して、予備として持つことも検討してまいります。

○松浦敏司委員長 ほかにございませんか。

○近藤憲治委員 それでは私からも何か伺わせていただきますが、まず、この破袋機は2台、もともと存在していると思うのですけれども、モーターが壊れたほうは古いほうなのか、それともコロナの交付金で新たに追加した2台目のほうなのかを明らかにしてください。

あわせて使用開始時期もお願いします。

○近藤賢生活環境課長 今回故障した破袋機は古い、最初から入れているほうの破袋機でありまして、使用の開始時期は平成29年4月になります。

○近藤憲治委員 こういった機械類の耐用年数ですね、いわゆる廃棄物の再資源化施設の施設そのものの耐用年数って通常15年から20年、これは最終処分場と合わせて国の交付金を受けるので、そうやって設定すると思うのですけれども、こういった機械類の耐用年数ってどのように設定されているのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 機械類につきましては7年という形で設定をされています。

○近藤憲治委員 そうなるとですね、今回モーターが壊れましたという話なのですか、モーターを途中で交換しているという答弁が先ほどありました。耐

用年数に満たない段階で壊れたということではないですか。

○近藤賢生活環境課長 その点については、耐用年数満たしていませんが、モーター、シャフトについては負荷がかかって壊れた状況と考えています。

○近藤憲治委員 負荷がかかって壊れた、しかし耐用年数に満たない、なぜ負荷がかかったのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 破袋機を回している上で異物等の混入があって、急停止したりすることが原因と考えられます。

○近藤憲治委員 生ごみに入ってくる異物の割合の論争というのも、これまでも様々な場面でさせていただきましたけれども、網走の分別協力率、生ごみ、結構高いですよという議論はずっとあって、それでも異物が入ってきて止まってしまうのはどうということなのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 皆さんに分別はしていただいているところですが、入れる前には確認をしているところですが、確認できなかったものが入った際に急に止まることもあります。そういったことの繰り返しで負荷がかかっているものと考えられます。

○近藤憲治委員 今の話だと入れる前に異物がないか確認して、きちんと本来入れるべき生ごみだけを入れていけば壊れないのだけれども、その確認がちゃんとし切れなかったというニュアンスですか。そうすると、これは破袋機の耐用年数というよりは運営業者さんの業務内容に不備があったから壊れたという話になっちゃうと思うのですけれども、根本的な原因は何なのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 根本的な原因は、やっぱり急な負荷がかかることがあると思うのですが、新しく入れた破袋機については、負荷がかかりづらい設定になっているというのがあるのですが、当初からあるほうの破袋機については、そういったシャフトに負荷かかるような状況になっていて、故障がちょっと繰り返されている状況にはあります。

○近藤憲治委員 コロナの交付金を使って導入したほうは止まらない。しかし古い、平成29年に入れたほうは止まる、さらに壊れるということなのですね、今の答弁によると。そうなってくると、先ほどもお話にありましたが、異物を入れると壊れてしまうということが明らかになっているわけなので、なるべく異物を入れないようにオペレーションすべきだった。けれどもできていなかったというふうに関

こえてしまうのですよ。なので、そこはですね、そもそもの原因が何なのかというのをちゃんと把握したほうがいいと思いますね。何となく壊れたから修理しなければいけない、300万円かかりますと言われてもですね、我々も説明できないのですよね、市民の皆さんに。何で壊れたのですか、いや、なんかよく止まっちゃうらしいよとしか言えないので、そこをどうやって説明したらいいのでしょうか。その異物の混入はと言われてもですね、しかし市民の皆さんの分別協力率は高いと知っちゃっていますから、何で異物の混入なのという話にもなっちゃうので、どう説明したらいいのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 休憩をお願いします。

○松浦敏司委員長 暫時休憩します。

午前10時47分休憩

午前10時49分再開

○松浦敏司委員長 それでは再開いたします。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 市民の方の御協力によりまして、分別の協力率は高い状態ではあるのですが、破袋機の原因になるものが一つでも入るだけでも、止まる原因となってしまいますので、そこは生ごみ以外の区分のものは入れないように、改めて市民の方に説明をしてまいりたいと考えております。

○近藤憲治委員 そこはちょっと堂々巡り感もあるので、現場のオペレーションなのだと思いますよ。異物が入ったら止まるというのは現場はわかっているわけですから、極力、市民の皆さんに呼びかけるのもあるのだけれども、結局現場で機械をなるべく止めないようにするということが大事なのですよね。堆肥化率を上げていくためには。そう考えると、やはり破袋機に入れるときに、これに異物が入っているか、入っていないかというチェックをきちんと精緻に行うという必要性があると思いますので、そこは受託事業者さんときちんと協議していただきたいと思います。

次にですね、併せて伺いたいのですけれども、破袋機が2台あるのですよね、現状。2台同時に動かしているのでしょうか、常時。

○近藤賢生活環境課長 基本的には二つ動かします。

○近藤憲治委員 それは常時でしょうか。

○近藤賢生活環境課長 常時といたしますか、搬入のごみの量に応じて稼働しています。

○近藤憲治委員 生ごみの堆肥化率が上がった9

月、10月、11月のこの3か月の間で、破袋機1台で動かしていた時期はありますか、ありませんか。

○松浦敏司委員長 暫時休憩します。

午前10時51分休憩

午前10時54分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

近藤委員の質疑に対する答弁から。

○近藤賢生活環境課長 すみません、9月から11月の破袋機の体制ですが、ずっと2台で動いていて、1台になっていた時期はなかったということでございます。

○近藤憲治委員 はい、わかりました。

それでは常に2台必要であるという答弁なので、常に2台動いているかというのはまた今後、別の場面で調査をさせていただきたいと思っております。

今回補正を上程されたということは、緊急を要するということなのですが、モーターは6か月以上かかるということでありました。その間堆肥化率を下げないように努力をされるということですが、実際努力をしてどれくらい維持できるかという見立ては、現在、受託事業者と話し合いをどの程度できているのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 現状としましては、今の破袋機が、新しいほうの破袋機が動いていれば、ちょっと大変申しわけないのですが、稼働時間を延ばして、入ってきたものは処理するというところで協議しております。

○近藤憲治委員 8割ぐらいは維持できるのですかね。

○近藤賢生活環境課長 追加になりますが、先ほど全量を処理できるということで協議していると答弁しましたが、年末年始につきましては搬入量が多くなることが見込まれますので、そこは可能な限り処理をして、なるべく埋立てに回す量を減らすということで協議をしてみたいと考えております。

○近藤憲治委員 ぜひ、そこはですね、最終処分場に負荷をかけないというのが最大の目的ですから、きちんと受託事業者と協議、そして業務内容がオーダーしたような中身で行われているのかというのはチェックしていただきたいと思っております。

あわせて、これまで生ごみの堆肥化については発酵槽を増やさなければならないとか、人数を増やさなければならないというような議論も過去にありましたが、ほかの地域で生ごみの堆肥化をやっている事業者さんと話すと、発酵槽はそんなに多くはいり

ません。なぜならば、堆肥化の速度を上げれば、つまり発酵の速度を上げれば、そんなに置いておく必要はないですよという助言を受けた例もありますし、人数もそんなに多く入りませんという助言も受けていますので、本当に今の生ごみ堆肥化の作業プロセスそのものがきちんとなされているものなのか、最善の形でなされているものかというのも常にチェックしていただきたいと思います。この修理の件も含めてですね。そこについての認識はいかがですか。

○近藤賢生活環境課長 体制につきましては、現状としましては、今の人数が必要というふうに考えておりますが、他の堆肥化施設の状況を聞き取るなどして検証をしていきたいと考えます。

○近藤憲治委員 理解しました。

○松浦敏司委員長 はい、ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それではお諮りいたします。

議案第7号令和4年度網走市一般会計補正予算中、所管分については、全会一致により原案可決すべきものとして決定してよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

そのように決定いたしました。

それでは、これもちまして文教民生委員会を終了いたします。

午前10時58分閉会